

⑫2024年度 全学学生委員会

PLAN(計画) ➡2024年4月までに
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
【目標】 メンタルサポート体制の強化、配慮申請内容の取り扱いに関して検討する。 【具体的な方法】 学生相談室、メンタルサポートハンドブックの教職員・学生周知の強化、外部相談員の利用、連絡委員会の充実 【KPI】 保健管理委員会での相談室報告内容、配慮申請数(教務との連絡による、連絡委員会報告数)
【目標】 多様な学生に対する配慮の精神を全学生、全教員へ浸透させる。 【具体的な方法】 学生と教員のコミュニケーション充実、LGBT・ハラスメントに関する啓発活動の実施 【KPI】 実態把握数(調査・相談等)の減少
【目標】 障がい学生支援に関する連絡委員会の体制を検討して、活動する。 【具体的な方法】 合理的配慮の具体的な例を共有するための仕組み作り 連絡委員会体の規程改訂 【KPI】 合理的配慮申請数
【目標】 学生が安全で安心した学生生活を送るための支援体制の確立、学生への周知を図る。 【具体的な方法】 新入生特別研修での学科内親睦・交流促進、学生の居場所づくり・交流の場について検討し、早期の友人作りを促進させる。 課外活動の周知・加入促進。 【KPI】 不安や悩みに対する相談先がわからない学生の減少・学生生活に関する意識調査で不安を持つ学生数20%以下
【目標】 社会状況の変化に応じながら、学生の生活に必要な経済的支援と生活における収支の見直しを啓蒙する。 【具体的な方法】 奨学金情報の収集、整理、発信、効果的な学生への周知方法を検討・実施 マルチ商法の危険性について全新生入に理解させる。 文化教養講座でのFP講座実施 【KPI】 経済的困窮による退学者(除籍者)数の減少

DO(実施)	実施状況(実施率)
D:計画を実行しその効果を測定する。 ・相談件数増加に伴う対応として、相談員の増員(昨年度5名、本年度6名)を実施した。昨年度まで女性相談員が1名であったが、2名とした。 ・希死念慮をもつ学生など、緊急に対応が必要と考えられる案件について、相談室・学生所属学科の学生委員・事務局で連携することとし、対応した。	90%
・ハラスメントに対応する規程等の見直しについて着手した。 ・多様な学生に対する学生間のハラスメント防止に向けて、議論を進めた。また、全学でのハラスメントガイドライン作成に委員長が加わり、年度末を期限としてガイドラインを作成する。	80%
・合理的配慮の具体的な内容をTeamsを使って告知したことにより、配慮実施に必要なボランティア学生が確保でき、配慮実施につながった。	80%
・新入生向けの学生生活ガイダンスでの周知を行い、課外活動系の委員会について、学生委員・担当職員による募集活動の積極的なサポートを実施した。 ・全学での新入生特別研修は問題なく終了した。	80%
・新入生を対象とした文化教養講座で、ファイナンシャルプランナーによるFP講座を実施した。 ・奨学金情報を公式HP上で紹介するほか、随時Teamsで情報共有した。 ・新入生を対象とした個別のクラスアドバイザー面談において、経済面での不安を持つ学生に対して、アルバイトの仕方や収入と支出のバランスを保つための生活面での工夫などについて話し合い助言した。	90%

CHECK(評価)	
C:目標と実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う	
評価	評価の理由/課題/根拠データ等
・これまで同様に学生相談室カウンセラー、学生支援グループ職員、学生委員、学科教員で連携して、必要な学生に対して支援を行った。 ・学生相談室体制の充実について、必要性はますます高まっているが、本年度の体制強化により在籍者数に対する相談件数割合は昨年度に比較して0.4ポイントの微減となり、相談室が相談の解決に導けている可能性が高まる。	保健管理委員会資料
・ハラスメントの現状について、学生委員長他で、規程およびガイドラインを評価し、問題点の整理を行った。 ・ハラスメントガイドラインの完成により、学内でのハラスメント言動の予防および被害学生への迅速な対応が可能となるものと考えられる。	ハラスメントガイドライン資料 保健管理委員会資料
・障がい学生に対して各学部学科毎に対応を継続している。 ・障がい学生支援連絡委員会では、サポートの専門部署の創設の必要性が議論され、段階的に準備を進めることとした。	障がい学生支援連絡委員会資料・議事録
・学生生活ガイダンスやクラスアドバイザー面談にて学生生活へのアプローチを充実させることができたが、学生生活意識調査の結果では「生きていること」に精一杯の学生や居場所のない学生もごく少数見られた。 ・新入生特別研修に参加した新入生によるアンケート結果より、満足度が高く好評であった。	学生生活意識調査
・文化教養講座に関しては、金融リテラシーを高める講座を実施し、新入生から好評の声を聞くことができた。 ・各学科でクラスアドバイザー面談を実施し、問題を抱える学生の早期発見・早期対応ができた。	学生委員会資料、クラスアドバイザー面談表

ACITON(次への改善)
A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
・保健室と相談室の体制の整備を引き続き行い、この強化した体制を維持する。 ・さらなる相談件数割合の減少を目指し、具体案を見出す。
・ハラスメントの規定およびガイドライン、視覚的に理解しやすいよう可視化したフローを作成し、学長および法人事務局へ提出する意見書を作成した。 ・ガイドラインに沿って適切に対応し、ガイドラインの有効性を検証する。
・障がい学生に関する各学科内の情報共有を促進し、統一した対応を行う。
・居場所がない学生に対して、早期より学科教員のサポート体制を整える ・新入生特別研修ではガイダンス期間中の新入生への負担になりすぎないよう、プログラムを検討することとし、学習モチベーションアップ、友人作りに効果的な内容へ改善することに向けて検討する。また、大学入学満足度をあげるための、リーダー学生の企画力・プレゼン力を向上させることを検討する。
・クラスアドバイザー面談等で学業面・生活面・経済面で問題を抱える学生の早期発見・早期対応を継続する。 ・奨学金などの経済的支援の最新情報をTeamsで学生・教員に共有する。

⑬2025年度 全学学生委員会

PLAN(計画) ➡2025年4月までに
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
【目標】 保健室と相談室の体制の強化 【具体的な方法】 ・学生相談室とのミーティング促進支援、外部相談員の利用 ・メンタルサポートハンドブックの教職員・学生周知の強化 ・発達障害(グレーゾーンを含む)の学生支援に関する教職員の理解促進 ・感染症対策の啓発活動の実施(感染症に伴う体調不良者の減少) 【KPI】 保健室・相談室の利用者数
【目標】 障がい学生支援に関する体制を強化する 【具体的な方法】 ・障がい学生支援に関する連絡委員会体制の継続的な運用 ・規定およびガイドラインの整理 ・合理的配慮の具体的な事例について掲示し、学内周知する。 ・障がいをもつ学生ほか、多様な学生に対する配慮の精神を全学生にもたせ、配慮の行き届いたキャンパスづくりをする。 【KPI】 合理的配慮の申請数
【目標】 学生生活におけるハラスメントの再発防止 【具体的な方法】 ・新入生学生生活ガイダンスでの詳細な説明 ・ハラスメントに関する啓発活動の実施 ・LGBTに関する学生および教職員の理解促進 【KPI】 ・実態把握数(調査・相談等)
【目標】 安全で安心した学生生活を送る支援体制の強化 【具体的な方法】 ・新入生特別研修で早期に学生間の交流を促進(学生が孤立しない仕組み・居場所づくり) ・委員会活動および課外活動の参加促進(幅広い交流の促進) ・教員からの積極的な交流を促進(クラスアドバイザー面談の早期実施) 【KPI】 不安や悩みに関する相談件数
【目標】 経済的に困窮する学生の支援強化 【具体的な方法】 ・奨学金に関する情報収集と効果的な学生への周知 ・奨学金制度の適切な運用、学生が継続して経済的支援を受けられる体制強化 【KPI】 経済的困窮を理由とした退学・除籍数(率)の減少

【目標】 学生会(部・同好会)等課外活動を活性化し、トラブルなく実施させる。 【具体的な方法】 学生会を支援し、新入生歓迎会等による部・同好会の入部促進 学生自治会等の学内委員会に多くの新入生の参加を促す。 学生間でのノウハウ継承を支援する。 【KPI】 部・同好会入会者数の増加	・新入生歓迎会をガイダンス期間の最初に実施した。 ・学生会定例MTGに学生会委員会の担当教員がサポートに入る体制を実施した。学科オリエンテーション時などに、学生が部活、課外活動についてプレゼンテーションを行った。学生会については、担当教員が2週間に1回、会合にオブザーバー参加、必要に応じて、助言をおこなった。	80%	・学生会幹部との2週間に1度のミーティング参加を通じて、新たなメンバー募集について、共通の認識を形成することができた。今年度実施できたものと、来年度以降に実施できるものを分け、来年度に向けて具体的なアクションをおこなっていくことが可能になった。	学生会議事録等	・学生会の現幹部が2年次であり、今後2年間は活動を継続可能だが、新規メンバーの勧誘を積極的に実施していく必要がある。	【目標】 学生会および課外活動(部・同好会・委員会)の活性化 【具体的な方法】 ・新入生歓迎会等による早期の学生会および課外活動(部・同好会・委員会)の入会促進 ・学生が行う各種活動に多くの学生が参加できるよう支援 ・学生会および課外活動(部・同好会・委員会)に関するノウハウの継承 【KPI】 学生会・課外活動の入会数
【目標】 学園祭を活性化し、学生の活動を地域社会に示す。学生サミットを開催し、学生にとっての学園祭をより意義のあるものにする。 【具体的な方法】 キッチンカーを誘致し、学生や研究室による出展促進、参加促進のための支援として、配置や環境の整備を検討。 地域を巻き込んだイベントを企画して地域のパートナーであることをアピール。 100周年のイベントであることも意識し学生との意見交換の場を設け、学生の満足度の高い学園祭を実施する。 学生食堂と十分に連携し、双方が納得する企画を立てる。 【KPI】 学園祭の来場者数の増加 出展による参加者数の増加	【ふじみ野キャンパス(あやめ祭)】 ・学食の営業と学食限定メニューコンテストを実施した。 ・3つの外部団体が出店し、公開講座を2つ実施した。 ・対面実施に向けて関係各所と連携をとり、参加団体や来場者数が増えるように工夫した。 ・ふじみ野市関連の業務等に絡ませた広報活動を充実させた。 ・ふじみ野近隣の学校への広報活動を行い来場者数の増加を促した。 【本郷キャンパス(文京祭)】 ・学生サミットで100周年を意識した実施に向けて情報交換を行った。前期はオンラインで文京祭の詳細な計画を聞き、後期は対面で報告を受けた。いずれの場においても教職員と学生間で意見交換が行われた。 ・当日は、外国語学部・経営学部両委員長がオープニングに出席した。 【30kmウォーキング】 100周年のイベントの一つとして、本郷キャンパスとふじみ野キャンパス合同で開催された。	90%	【ふじみ野キャンパス(あやめ祭)】 ・対面開催に戻り、徐々に活気が戻りつつある。内容検討を実施し多くの工夫を行った効果もあり、来場者数も昨年度より増えた。様々な問題や困難な部分がありつつも無事に終了することができた。アンケートでは、地域の方等の来場者より満足のいく内容が得られた。 【本郷キャンパス(文京祭)】 ・学生団体の本年度の活動をサポートするとともに、学生活動の発展に向けて適切なアドバイスを行うことができた。 ・文京祭の運営状況を確認するとともに、次年度に向けてより活気のある文京祭とするためのアドバイスを行った。 【30kmウォーキング】 両キャンパスから多数の参加者があり、100周年を祝うイベントとしても成功裏に終えることができた。	学生会委員会 あやめ祭報告資料	【ふじみ野キャンパス(あやめ祭)】 ・来年度も対面開催の実施ならびに内容の充実に向けて継続的に検討する。あやめ祭実行委員の人数が減少しているため、人員の増加を目指す。 ・様々な対策を講じながら参加者・来校者の増加も目指していけるように広報活動等の体制も整える。 【本郷キャンパス(文京祭)】 ・学生サミットは、前後期はそれぞれの役割を考慮し、参加者およびその内容の改善を図る。資料については可能な限り事前に確認して会議に臨めるよう、学生に対して指導を進める。 ・ゼミ担当教員に対して、文京祭への積極的な参加を呼びかける。 【30kmウォーキング】 次年度は学生の希望でスポーツ大会を実施するが、さまざまな取り組みで本学の伝統行事を維持していく。 ・より多くの学生が委員会・部活動や学生イベントに参加し、学生の活動が継続、発展するよう支援を行う。	【目標】 大学祭(文京祭・あやめ祭)の活性化 【具体的な方法】 ・在校生による出展促進および参加促進のための支援 ・各キャンパスの周辺地域への広報活動(地域住民が参加したいイベントを検討) ・卒業生のホームカミングデーの同日開催(卒業生も参加できるイベントを検討) 【KPI】 来場者数、出展による参加者数
【目標】 対人援助職を養成するキャンパスとしての教育的側面をより強化する。 【具体的な方法】 感染症対策の啓発活動の実施 【KPI】 保健室利用者の減少	・感染症対策のため、実習を控える学生もいるので、キャンパス内での行動について留意するようTeamsにて注意喚起を実施した。	70%	コロナウイルス感染症の影響はほぼ終息したが、その他インフルエンザ等をはじめとする感染症の急増に十分に対応できず、実習を休む学生が多く発生した。	学生会委員会資料、Teamsアナウンス	・感染症の発生状況を鑑み、季節ごとに注意喚起を行う。	【目標】 学生のマナー遵守の強化 【具体的な方法】 ・クラスアドバイザー面談および各学部での注意喚起 ・見回り活動、禁煙指導・無断駐車等に関する啓発活動の実施 ・ルール違反の学生に対する個別指導の実施 【KPI】 学外・学内からの報告件数

【目標】 キャンパス内外における、学生としてのマナー遵守を強化する。 【具体的な方法】 授業外の学生とコミュニケーション作りのために、喫煙所やキャンパス周辺の見回りを導入し、学生を見かけたときに積極的に声がける。 違反者に対して、本人の意見も十分に聴く機会を設けて個別指導を実施する。 禁煙指導を多角的に行う(健康面、経済面、学習面)。効果的な学生への周知方法を検討する。 東キャンパス、西キャンパスでの喫煙所追加設置を検討する。喫煙所を増やすことにより、致命的な火災につながりかねない部室内での喫煙を減らす。 【KPI】 学生による問題行動の減少。近隣住民からのクレーム数(ゼロ)。喫煙所周辺でのポイ捨ての減少。	【喫煙について】 (ふじみ野キャンパス) ・喫煙に関する掲示指導は継続しており、喫煙に関する苦情は学内外で発生していない。 (本郷キャンパス) ・喫煙所の設備・環境の改善について検討し、喫煙スペースを拡張した。また教職員による喫煙所周辺の清掃、学生への声掛けにより適切な場所での喫煙を指導することで喫煙マナー向上を働きかけた。 ・禁煙・卒煙への案内が喫煙する学生により伝わりやすいように設置場所を増やした。 ・年度初めを中心に、学生支援グループによる近隣見回りを実施している。 【その他のマナー順守、トラブル対策】 (ふじみ野キャンパス) ・今年度は、無断駐車に関する近隣からの苦情はなく、引き続き啓蒙活動を実施する。 ・学生生活を取り巻く危険(マルチ商法や、飲酒、不審者等)を継続的に注意喚起を実施した。 (本郷キャンパス) ・ガイダンスで外部識者による講演を行い、マルチ商法の危険性の理解を深めた。 ・SNS利用に際しても、情報漏洩の危険等を周知し、利用者としての意識の向上を図った。	90%	【喫煙について】 (ふじみ野キャンパス) ・指導体制の充実により、学内の秩序維持を保つことができた。喫煙に関する学内・学外トラブルは大幅に減少した。 (本郷キャンパス) ・喫煙所の改善および喫煙学生への指導により、少なからず学生の「適切な喫煙」意識が向上したと考えられる。今後喫煙所周辺でのマナー違反が減少するものと期待できる。 ・禁煙・卒煙のポスター拡充、パンフレットの設置により意識向上を図り、学生の健康向上に一定の効果はみられた。 ・近隣から路上喫煙についてのクレームはほぼなくなった。バイクの路上駐車による問い合わせが数件報告された。 【その他のマナー順守、トラブル対策】 ・無断駐車に関しては、Teamsでのアナウンスおよび学内駐車場で受け入れ体制を整え、近隣からの苦情をなくすことができた。 ・学生生活を取り巻く危険(マルチ商法や、飲酒、不審者等)について継続的に注意喚起の実施。 ・B'sLinkにより数回発信を行い、大きなトラブルは発生していない。	学生委員会資料、Teamsアナウンス	【喫煙について】 (ふじみ野キャンパス) ・特定屋外喫煙場所でのポイ捨て等に関しては、引き続き見回りおよびTeamsアナウンスで注意喚起する。 ・学外での迷惑駐車を減らすために、学内の駐車許可の申請を引き続き、受け付ける。 ・喫煙および無断駐車に関して、引き続き啓蒙活動を実施する。 (本郷キャンパス) ・喫煙所の美化、マナー順守のための学生とのコミュニケーション強化。喫煙所の増設場所を引き続き検討する。 ・喫煙する学生が禁煙・卒煙に向かう様子は確認できていない。 ・禁煙に対して、より学生の目に届くためのツール作り。 【その他のマナー順守、トラブル対策】 ・学内の飲酒の行為について、問題解決できていないため、引き続き注意喚起を行う。 ・路上喫煙以外の面(立ち騒ぎ、路上駐車等)においても近隣での迷惑行為防止のための施策を進める。 ・SNS使用について注意喚起すべき問題は複雑多岐にわたるため、適切な内容でタイムリーに発信を行う。	【目標】 学生生活意識調査の回答率向上および有効活用 【具体的な方法】 ・調査に関する設問内容の精査(項目の追加および不要な項目の削除) ・回答率の低い学部および学科に対して協力要請 ・学部および学科と保健管理委員会で情報共有(有効活用を検討) 【KPI】 回答率の向上
【目標】 すべての学生が満足度の高い学生生活を送る。 【具体的な方法】 キッチンカーを誘致する機会を増やすなどして、学生の食生活の充実を支援する。 学生の居場所について、現状を調査し、改善が必要な問題点を明らかにする。 【KPI】 キッチンカー誘致数の増加(30回以上) 学生の満足度 + 5%	・キッチンカーに関しては学生自治会に対して、学生食堂企業との間で調整を図りながら進めるよう指導が行われた。	80%	・メニューのうえでもキッチンカーと食堂の競合はなく、昼休みの食事環境の向上につながった。	学生委員会資料、Teamsアナウンス	・誘致するタイミング、回数について学生のニーズ把握し効果的に実施する。	
【目標】 学生生活アンケートを継続して実施し、学生からの多くの情報入手して学生支援に活かす。 【具体的な方法】 設問内容の精査 【KPI】 回答率の向上	・昨年度、設問の見直しを実施し、学生の負担軽減を図った。昨年度見直しした設問から、さらにブラッシュアップし、不要と思われる設問の削除を実施する。 ・調査結果の活用として、授業での二次分析を行う。	80%	・設問がブラッシュアップされ、負担軽減につながった。回答率は45.53%となり、昨年度より微増となった。授業での二次分析は実施に至らなかった。	回答率 45.53%(昨年度43.5%)	・アンケートの内容の継続性を担保しながら、引き続き、設問の追加・削除などブラッシュアップを行い、学生の負担軽減と現状把握を行う。調査結果の活用も引き続き検討する。	